



開物成務

令和 6 年 9 月 11 日 (水) 発行

校長 津田 千由美

新たな目標に向かって

台風の迷走に翻弄されましたが、大きな混乱もなく無事に 2 学期を迎えることができました。40 日ぶりに再会した子どもたちは、身長が伸びちょっぴり大人びた様子…学校中にまた、子どもたちの元気な声が戻ってきました。長期休業中のご家庭での見守り、ありがとうございました。

「先生たちは、夏休みに何をやっているの？」

子どもからそんな質問を受けました。

「先生たちも、もちろん
しっかりとお休みを
とりました。そして、
先生たちも研修会で
たくさん勉強しました！」



『これからの学校』の在り方について、改めて考える機会がありました。社会の急速な変化に対応するために、「これからの学校」にはどんなことが求められるのか、今年度のグランドデザインにもある、まさに『原点回帰』です。未来を確実に予測することは難しいですが、一つには、共生社会の実現があると思います。誰もが生き生きとした人生を送ることができるよう、今後も引き続き、「自分とは異なる価値観の人とも関わる力」や「自分自身も他者も大切にできる力」の基礎を育んでいきます。

9 月 27 日 (金) には第 2 回目の学校公開とクリーンデー、10 月 26 日 (土) には運動会があります。子どもたち同士の関わり合う姿や意欲的に学ぶ姿をご覧いただけるよう、教職員一同尽力してまいります。今学期も、保護者、地域の皆様のあたたかなご支援をよろしくお願いします。

■ 2 学期最初の朝会の話 (概要) テーマ「平和ってなに？」

今年の夏は、パリでオリンピックが開かれました。オリンピックは「平和の祭典」とも言われています。オリンピックは終わってしまいましたが、今はパラリンピックが開かれています(9/3 現在)。今回このパラリンピックに、パレスチナから唯一参加したのは、陸上男子砲丸投げ、車いすクラスのアルディープ選手でした。アルディープ選手は、23 年前に爆撃に遭遇し、不運にも車いす生活になりました。さらに、昨年 12 月には爆撃によって家が破壊され、親族 17 人が亡くなったそうです。それでも参加することにしたのは、世界中の人々に「あきらめない姿を見せたかったから」と話していました。

「平和ってどんなことでしょう」「どうしたら平和になるのでしょうか」これは、世界の永遠の課題です。先日、たまたまテレビを見ていたら、戦争の語り部をしている女性がこんなお話をされていました。「平和には『大きな平和』と『小さな平和』があります。『大きな平和』は、『国同士の平和』のこと。

『小さな平和』は、たとえば「先生に元気におはよう」ということだったり、倒れている自転車をそっとおこしてあげることであったり、日々の何気ない相手を大切に思う行動です。そして、一つ一つの積み重ねが大きなものにつながっていきます。地道に続けていける人になってほしいと思います。」

私にとって、この言葉はとても衝撃的でした。なぜなら、「平和を創るのは自分自身である」という強いメッセージが伝わってきたからです。

開成小学校の皆さんにも、きっとできることがあると思います。あなたは、どんなことを続けられそうですか。

子どもたちから、こんな答えがかえってきました！

- ・ 一人ぼっちの人を誘ってあげる
- ・ 困っている人がいたら助ける
- ・ 相手を傷つけない言葉を話す
- ・ ちょっとしたことでも感謝の気持ちを伝える
- ・ 当たり前前の生活を大切にする
- ・ みんなと楽しく授業する
- ・ フードロスを少しでも減らす
- ・ 初めてあった人にも大きな声で挨拶する
- ・ 毎日あった出来事を家族に話す
- ・ 自分にできることを考えて挑戦する

子どもたちの挨拶がさらによくなりました！



夏の思い出発表会～ICTを使って～

先週、3年生が「夏休みの思い出」を発表しました。教室の大きなスクリーンには大寫しの写真が…。
「えー、子どもだけでキャンプ?」「お兄ちゃんは行かなかったの?」

写真を見た子どもたちからの質問が飛び交いました。次に、画面が切り替わり、子どもが書いた作文が大寫しになりました。書いた本人が読み上げるまでもなく、子どもたちは黙読を始めました。

夏の思い出をみんなで共有し合えた、とてもすてきな時間でした。

3年生は今年の夏休みに、タブレットを活用した「現代版絵日記」に取り組みました。「絵」の部分は写真データになり、「日記」部分は、直筆したものを写真に撮ったり、実際に打ち込んだりしました。

夏休み中のタブレット持ち帰りに戸惑ったご家庭も多かったと聞いていますが、これからの時代を生きる子どもたちにとって、情報活用能力を育むことは必須です。今後、学校でもタブレットの持ち帰りについて検証し、効果的な活用方法を模索していきます。



クリーンデー何が変わるの?

第1回目のクリーンデー(9/27)は、子どもの掃除場所と一緒に汗を流そうという取組に変わります。

親の後ろ姿から、掃除の仕方や勤労の大切さを学んでほしいと思います。

もう一つの期待値は、「〇〇ちゃんのお母さん、□□ちゃんのお父さん」のように、おうちの方の顔をお子さんの友達に知ってもらうことです。

自分の子どもを支えてもらうためには、周りの子どもたちを育てることが必要です。多数の皆様のご参加をお待ちしています。

運動会何が変わるの?

今年から学級を2分割した赤白対抗戦に変わります。互いに切磋琢磨し合うことで、自分の力を高めていくことを目指します。

また、学級という枠組みに縛られず、新たな居場所を創り出すことで、挑戦意欲を生む効果も期待しています。

「子どもたちが主体的に取り組めるような運動会を創ろう」を合言葉に、少しずつ動き出しています。

*今年度から鉢巻の縫い付けはなくなりました

わたしのひとりごと

夏の研修会で、ある講師の方からこんな言葉を教えていただきました。
「太陽アプローチ」
北風ではなく、「太陽アプローチ」です。思い当たることがありました。

今年のパリオリンピックのスケートボード。金メダルを獲得した14歳の少女、吉澤恋さんの話です。吉澤さんは、コーチである父親に対し、練習後にその都度点数をつけたそうです。父親がインタビュに答えていました。
「今日は、選択肢を与えてくれたので、200点!」
「今日は、感情的になっっているだけじゃん。だから0点」
「怒った言い方がいやだった。55点」

エピソードをもう一つ。

3歳の孫が、初めて塗り絵を体験しました。地の線には全く無頓着。私から見れば、完成品はただの落書きでしかありません。でも、本人は嬉しそうに「ばあば、見て」と言います。返答に迷いましたが、「がんばったね」と答えました。すると、さらに気をよくした孫は、ニコニコ顔で「ママに見せるんだ!」と答えました。「どうしてママに見せるの?」と聞くと、「だってママが喜んでくれるから」と。「太陽アプローチ」は子どものやる気の源だと思いました。

大好きな親のプラスのアプローチは子どもの心に火をつけます。心の発達段階に応じて、親がどんなアプローチをするのか。

時には北風を吹かすこともあるでしょう。北風の後は太陽のような愛を惜しみなく…きつと、親の想いは伝わると思います。

